

芸術科（美術） 学習指導案

大阪府緑風冠高等学校

1 日時 平成〇年〇月〇日（〇）第〇時限 〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分

2. 場所 本館〇階 第〇学年〇組教室

3. 学年・組・教科（科目） 第3学年（15名）

4. 単元（題材名） 「陶芸」
使用図書、教科書なし

5. 単元（題材）の目標

- ・ 使う人の気持ちや使用する場などを考えて作品を制作することに関心をもち、主体的に発想して構想を練ったり、制作方法を理解し、創意工夫して制作に取り組む。（美術への関心・意欲・態度）
- ・ 感性や想像力を働かせて、使う人の願いや心情、生活環境などを考え、心豊かに発想し、使用する人や場などに求められる機能と美しさを考えて制作の構想を練ることができる。（発想や構想の能力）
- ・ 意図に応じて陶芸の材料や用具を活用したり、手順や技法などを吟味したりするなどし、創意工夫して制作することができる。（創造的な技能）
- ・ 工芸作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫などを感じ取り、生活や社会を豊かにする工芸の働きについての理解を深めることができる。（鑑賞の能力）

6. 教材観

陶芸という題材は日常誰もが「食器」というものを通して触れている私たちにとって大変身近なものである。しかしながら学校においては施設・設備の問題などでなかなか一般的な教材として普及していないように見受けられる。

本校では開校時に普通科総合選択制カリキュラムでの一環として美術エリアが誕生し、その施設充実にあたって工芸室と陶芸窯が設置されており、この環境を十分に活かした本題材が可能となっている。生徒に話を聞くと陶芸に興味を持っている者が相当数いるということがわかる。理由はテレビなどで「ろくろ」を挽くのを見て「おもしろそうだ」「やってみたい」という気持ちを持ったが、やったことがない。身近にそういう環境がなかった。というものである。この「おもしろそうだ」「やってみたい」というモチベーションを大切にしたい。

言うまでもなくこの「モチベーション」というものは学習効果を生む大きな要素のひとつである。人は興味のないことにはなかなか取り組むことはできない。「主体的に学習に取り組み、深い学びを獲得する」ためには、「このモチベーションをどう与え、高めるか。」に依ると言っても過言ではない。選択科目の陶芸は最初からこの「モチベーション」をある程度持っているもので、後はこれを高めていくことを考えればよい。「興味のあることを始めてモチベーションが高まる」→「自主的・積極的に学習に取り組む」→「学習効果が上がって成功体験をする」→「よりモチベーションが高まる」→「より自主的・積極的に学習に取り組む」。この「良い循環」を生み出し、その過程において生徒同士あるいは指導者と対話して次のステップへの糧とすることが「主体的・対話的で深い学び」への鍵になるのではないだろうか。

7. 生徒観

（略）

8. 指導観

道具の準備、粘土練りから途中作品や粘土の管理、清掃、完成作品の展示までさせることにより、生徒は主体的に制作に関わっていく。陶芸の基礎技術習得から始まり造形力、感性を高めた創造的な制作活動や生徒同士、指導者との対話を通して全人的な成長を育む深い学びを体験する。

具体的な内容は以下のとおり。

- ① 自ら学ぶ姿勢を身に付ける。
- ② 制作にまつわる様々なことを知り、自己マネジメントができる。
- ③ 陶芸の基礎知識・技能を修得する。
- ④ 個に応じた指導により、一人ひとりがより高度な表現力を獲得する。
- ⑤ 自分の作品に責任を持つと同時に他人の作品を尊重して、多様な価値を認め相互に高めあう。
- ⑥ 準備、かたづけ作業、展示作業を全員で行うことにより他人と協働する姿勢を養う。

9. 単元（題材）の評価規準

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	①使う人の気持ちや使用する場などを考えて作品を制作することに関心を持ち、主体的に発想して構想を練ったり、制作方法を理解し、創意工夫して制作したりしようとしている。 ②ほかの生徒の作品や工芸作品などに関心を持ち、主体的に作品のよさや美しさを感じ取り、生活や社会における工芸の働きについての理解を深めようとしている。	感性や想像力を働かせて、使う人の願いや心情、生活環境などを考え、心豊かに発想し、使用する人や場などに求められる機能と美しさを考えて制作の構想を練っている。	制作方法を理解し、意図に応じて陶芸の材料や用具を活用したり、手順や技法などを吟味したりするなどし、創意工夫して制作している。	工芸作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫などを感じ取り、制作過程における工夫や素材の生かし方、生活や社会を豊かにする工芸の働きについての理解を深めている。
評 価 方 法	制作の様子 鑑賞活動やグループワークの様子	ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 完成作品	制作途中の作品 完成作品	ワークシート レポート

*○必要に応じて評価する (指導に生かす評価)

◎全生徒を評価する (記録に残す評価)

10. 単元(題材)の指導と評価の計画 (年間)

学期	単元名	学習内容	※主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	オリエンテーション(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方、題材の目標、評価の規準を理解する。 準備、片付けの方法を学ぶ 	○				【a】オリエンテーションの内容を理解し、目的をもって主体的に活動に取り組んでいる。	観察
	粘土の練り方・管理(6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 練りの重要性を理解する 荒練、菊練を習得する。 自分の粘土を管理する。 	○		◎		<p>【a】粘土の特性、用具の使用法などに関心を持ち、主体的にそれらの効果を生かし、手順や技法などを習得するために目標をもって取り組んでいる。</p> <p>【c】粘土の特性、用具の使用法などを理解し、特に菊練りについて、手順や技法を習得しているか。</p>	実技テスト 観察 *実技テストは何度でもチャンスを与える
1 ～ 2	技法を選択し学ぶ(10時間) ※本時	<ul style="list-style-type: none"> 選択した技法の基本を習得する。 準備物、道具類の使い方、片付け方を覚える。 繰り返し練習し、基本技術を身につける。 <ul style="list-style-type: none"> *たたら技法 *ろくろ技法 *くりぬき技法 *練りこみ技法 *てびねり技法 *練りこみ技法 1学期末段階での練習まとめの作品を作る。 作品の構想をワークシートにまとめる。 		◎	◎		<p>【b】材料の特性や技法の特徴から感じ取ったことや自己の思いなどから制作の目的や条件を考えて発想している。</p> <p>【c】制作するものの構造、材料の特性、用具の使用法などを理解し、意図に応じて技法を吟味し、それらの効果を生かして制作している。</p> <p>*どういふものを作りたいのか個々に相談しながら技法を選択させ、注意、アドバイスを与えていく。</p>	観察 制作途中の作品 まとめた作品 ワークシート

2	構想を練る(8〜時間)※本時	<ul style="list-style-type: none"> 技法を活かした形や色を練習しながら試行錯誤を重ね、構想を練る。 自分の構想をホワイトボードの表に記入する。 	○	◎	○	<p>【a】使う人の願いや心情、生活環境などを考えて制作することに関心を持ち、主体的に発想し、使用する人や場に求められる機能と美しさなどを考えて構想を練ろうとしている。</p> <p>【b】使用する人や場に求められる機能や条件、美しさなどを整理し、形や色彩、材質の造形要素や構造について考え、客観的な視点に立って構想を練っている。</p> <p>【c】制作全体を見通し、効果的な制作手順や制作に適した技法などを吟味している。</p>	観察 制作途中の 作品
2 〜 3	本制作 (14〜時間)	<ul style="list-style-type: none"> 構想したことを基に技法に応じた材料や用具を吟味して使い、表現方法を工夫する。 途中作品の湿度管理をする。 (時間外の来室も可) 乾燥〜本焼きを行なう <ul style="list-style-type: none"> 乾燥 素焼き 絵付け 施釉 本焼き 	○	○	◎	<p>【a】粘土の特性、用具の使用法などに関心を持ち、主体的にそれらの効果を生かし、手順や技法などを吟味しながら制作しようとしている。</p> <p>【b】作品に求められる機能や条件、美しさなどを整理し、形や色彩、材質などの造形要素や構造、素材の生かし方などについて考え、適した技法を吟味し構想を練っている。</p> <p>【c】制作するものの構造、材料の特性、用具の使用法などを理解し、意図に応じてそれらの効果を生かして制作している。</p> <p>*技術力が不足している生徒には助言を与えるが、技法の変更や構想段階に戻ることを考えさせることもある。</p>	観察 制作途中の 作品 完成作品 スケッチブックなど

	中間発表 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品について「制作意図、目標」などを発表する。 他人の作品を見て感想批評などをワークシートにまとめる。 <p>*全体の制作状況を見ながら適当な時期に設定する。</p>	○			◎	<p>【a】ほかの生徒の作品に関心を持ち、主体的に作品のよさや美しさを感じ取り、理解を深めようとしている。</p> <p>【d】作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫などを感じ取り、制作過程における工夫や素材の生かし方など作品についての理解を深めている。</p>	観察 ワークシート
3	展示・発表 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品を発表することでモチベーションと責任感を高める。 外部の展覧会に出品する。 校内に展示する。(卒業展示) 協力して搬入出、展示作業を行う。 	○				<p>【a】ほかの生徒の作品や工芸作品などに関心を持ち、主体的に展示活動に取りくんでいる。</p>	観察
	鑑賞 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> DVD(陶芸作家の制作過程、作品について)を鑑賞し陶芸についての理解を深める。 自他の作品を鑑賞して造形的なよさや美しさを味わい、作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取る。 展示した作品について相互に批評しレポートにまとめる。 	○			◎	<p>【a】DVD教材や自他の作品について関心を持ち、鑑賞活動ができているか。</p> <p>【d】形や色彩、素材などの美しさと用途や機能との調和、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、分析するなどして作品についての考えなどを持ち、理解している。</p>	レポート1 レポート2

※時間は予定。個人によっても融通を持たせる。

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・使う人の願いや心情、生活環境などを考えて制作することに関心を持ち、主体的に発想し、使用する人や場に求められる機能と美しさなどを考えて構想を練ることができる。
- ・使用する人や場に求められる機能や条件、美しさなどを整理し、形や色彩、材質の造形要素や構造について考え、客観的な視点に立って構想を練ることができる。
- ・制作全体を見通し、効果的な制作手順や制作に適した技法などを吟味することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・【a】 使う人の願いや心情、生活環境などを考えて制作することに関心をもち、主体的に発想し、使用する人や場に求められる機能と美しさなどを考えて構想を練ろうとしている。
- ・【b】 使用する人や場に求められる機能や条件、美しさなどを整理し、形や色彩、材質の造形要素や構造について考え、客観的な視点に立って構想を練っている。
- ・【c】 制作全体を見通し、効果的な制作手順や制作に適した技法などを吟味している。

(3) 本時の学習過程 菊練りの練習が始まって3～4回目の授業時（1学期中頃）

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
55分 導入・展開1	<p>○本時の流れを説明する</p> <p>○菊練り実技テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技法相談 *たたら技法 *ろくろ技法 *くりぬき技法 *練りこみ技法 *てびねり技法 *練りこみ技法 	<ul style="list-style-type: none"> ・菊練りの習熟度を確認する ・習熟度を測るため実技テストを行なう。 *希望者から順にテストを行なう。（本時にしなくてもよい） *実技テストは何度でもチャレンジ可とし、技術の修得と意欲を促す。 ・菊練りのテストで合格点に達した生徒から希望する技法と作りたいものを話し合う。 *合格者、不合格者が出るので個別に話し合う時間が生まれる。 *安易に簡単なものへと流れないように個々の適正な目標を設定する。 *オリエンテーションで各技法による作品例を見せておく。 	<p>【c】 制作全体を見通し、効果的な制作手順や制作に適した技法などを吟味している。（作品）</p>
35分 展開2	<p>○技法の練習 （菊練りの継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具の準備、使い方、片付けの学習 <p>○作品の構想を練る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作についての告知 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談後、技法の決まった生徒を順次集めてその技法を解説、実演する。 ・道具の準備、使い方、片付け方を指導する。 ・自分の作りたいもの、技法、目標などを教室内のホワイトボードに書き込ませる。 	<p>【a】 使う人の願いや心情、生活環境などを考えて制作することに関心をもち、主体的に発想し、使用する人や場に求められる機能と美しさなどを考えて構想を練ろうとしている。（観察）</p> <p>【b】 使用する人や場に求められる機能や条件、美しさなどを整理し、形や色彩、材質の造形要素や構造について考え、客観的な視点に立って構想を練っている。（作品）</p>

10分 ま と め	○まとめ ・ 次回の連絡と片付け、清掃 ・ 次回の連絡をする。	・ 道具の片付け ・ 粘土の片付け ＊ 粘土は工芸室内の棚に自分で管理させる。 ・ 清掃 ＊ 自分のもの、自分の周りだけでなく、遅れている者を手伝うなど協力して作業させる。 ＊ 指導者が見ていなくても自分の責任が果せるようにする。	
--------------------	--	--	--

「観点別評価の判断基準」の設定

判断基準 評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 指導の手立て
b	使用する人や場に求められる機能や条件、美しさなどを整理し、形や色彩、材質の造形要素や構造など、さまざまな観点から検討して構想が深められている。また、ホワイトボードに客観的に説明することができる。	使用する人や場に求められる機能や条件をふまえ、発想や構想をし、指導者に伝えることができる。	具体的なイメージをスケッチや言葉、簡単な図面などで考えを整理するようにする。また、複数の制作の方法について具体的に説明する。



(4) 本時の位置づけと主体的・対話的で深い学びを実現するための工夫

本時は1学期の後半、オリエンテーションから荒練り、菊練りの練習を経て「さあ、作品作りに取り掛かろう」というところだが、実は1年間の学習で最も重要な時期である。

本題材では主体的・対話的で深い学びを実践することを中心に授業を展開するため、「個に応じた」指導を重視している。先にも述べたが「自ら学びたい」という欲求、モチベーションを与え、高めるために、「何をどんな風に作りたいのか」また、「どのような技法に興味があるのか」、生徒一人一人の興味関心を聞き出す必要がある。これからの制作についてのイメージ作りを指導者と生徒が対話しながら行なうことで「何を学んでいけばよいのか、どうやって学んでいけばよいのか」「何を学ばせればよいのか、どのように学ばせればよいのか」という双方のビジョンが共有できれば1年間の授業はもう軌道に乗ったようなものである。

同じ陶芸と言ってもろくろもあれば、たたらや練りこみもあり、生徒の興味関心も様々である。また、技法に対する生徒の個性のようなものも考えなければいけない。「ろくろをやりたかったがどうしても土殺しがうまくできない。中心がとれないのでその先に進めない。隣の生徒はもう茶碗を作っている。私は才能がないのかなあ。他の技法に変わろうかなあ。たたらって簡単で色々な形ができて楽しそう。」「練りこみは色を自由に使えて模様もきれいにできるから楽しいかなって思ったけど顔料を計ったり、混ぜるのが大変で面倒。やっぱりろくろで一気にできる方がいいかな。」よくある光景である。生徒を同じ題材に取り組ませるとどうしても能力や興味の差から進度にばらつきが出る。指導者はその差を縮め、同じ期間に終わらせようと考え、努力する。そこには「生徒に何を学ばせるか」でなく「いかに授業を終わらせ点数をつけるか」に陥る落とし穴がある。ならば、同じことをやらなければよいのではないだろうか。違う題材（大きくは同じ陶芸）に取り組ませると他人と比べられることがなく、生徒は自由になる。細かな進度差によるプレッシャーもなくなり、指導者もそこに注意を傾ける必要がない。生徒はいつのまにか主体的に授業に取り組むようになり、指導者は学びを支援する立場になる。作品の進度は様々になるが、大きな区切りとして学期単位の設定があればよい。生徒の中でいくつもの題材や技法があれば、そこには「へえ～すごいなあ」「どうやっての」とい

った交流や対話が自然と生まれ、間接的な体験までも得ることができる。「違う、異なる」ということがあたりまえになれば「同じことを同じようにやらねばならない」という呪縛から解放され、本当にやりたいことに取り組むことができるようになり、なおかつ様々な価値観を尊重するという協働共生にもつながってゆく。

深い学びにはある程度の失敗と成功が必要で、その成功は生徒が実感できるものでなければならぬ。そこに1年をかけて一つの題材に取り組む理由があると私は考えている。十分に時間をとって考え、試行錯誤し失敗を経験して作品を成功に導く。また、作品の制作以外に準備や片付け、途中作品や粘土の管理、完成した作品の展示活動など、総合的な活動を通して題材を超えた学びは深まるのではないだろうか。

これら、主体的・対話的で深い学びの第一歩が本時から始まる。